

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	冬季雜詠：文苑
Author(s)	滴人；水郷
Citation	龍南會雜誌， 1 3 4： 5 2 - 5 2
Issue date	1910-02-28
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5853
Right	

冬季雜吟

滴

人

冬籠り帙切れ辭書も指垢に
拾番基日に一局と冬籠る
奥御所や欄間の千鳥鳴く思ひ
舸夫は云ふ千鳥日和と西風荒れて
天草誌異端の所由鳴く千鳥
千鳥にやあらむと石礫して鳴かす
磯風ぎの沖荒れ日和鳴く千鳥
千鳥石と海跡形もなき丘に
航海誌千鳥に詩興覺けけり
拓植の祝句や題は千鳥にて
重荷下す渡舟揺れ浪や飛ぶ千鳥
時化來らし鳴き急ぐ千鳥又陸へ
島に千鳥飛ぶも見わけり夕照にて
何境頓に千鳥に開け海趣歌ふ
南畝逸事千鳥の歌も其數に
千鳥にや聞かむ流罪の夫が事

五十二

千鳥鳴く伊豫路は雨か夜の船路

紀元節二句

八道の礎祝ふ梅花かな
國の榮々梅花に讃ふ節會哉

水

郷

説かば死なん神謎も岩戸千鳥哉
戯曲思ふ洲の松癪や飛千鳥
島誌にも松原饅頭千鳥哉
橋の名を文の名とせん小夜千鳥
新船に授符の神事や鳴く鳥
貝礫鳥居にそれぬ鳴く千鳥
雪に咲く花黄に照れり鳥千鳥
筆疲れを疊む繪絹や小夜千鳥
墓殘して住み捨つる島やなく千鳥
舟待ちを岬簾や小夜千鳥
島の井は鹽はゆき物に飛ぶ千鳥
戀を得し心千鳥に耳燃にて
髣髴たり千鳥の袖を夢に又